

後ち突厥種族の爲めに、漸く西に逐はれ、或は半ば之と混合したるものならん。と根據ある説に庶からんも、唯吐魯番以西の土民をして、悉く大食人即ち波斯人なりと斷ずる如きは、少しく杜撰の説たるを免れざらんか。極めて正確に調査せば大食人は其の七分を有し、三分は他の人種混和し居るならん。

又一説

又歐洲人の唱ふる一説に據れば、

東土耳其斯坦即ち天山南路の人民は、混交せる人種より成れり。支那の歴史上及地理上より攻究するも、佛教の未だ此地に入らざる以前は、阿富汗、波斯等と同じく「アリアン」人種なりしこと疑ひ無し。現に東土耳其斯坦一部の人種は、波斯人の苗裔にしてアムタリヤの峽谷に棲息するカルチャスの一族たるは争ふべからざる事實とす。其の容貌は魯西亞、土耳其及布哈爾人と齊しく、骨格長大威嚴あり、性質爽快正直なり。能く祖先の慣習を遵守し、太陽並に火焰を崇めり。又他種族人と雜居するにも拘らず、嘗て固有の風俗を改むる無し。葉爾羌河の上流に在りては、今尙ほ能く波斯語を説話する部落あり。と蓋し南路の纏頭回、其他住民の言語は、總て喀什噶爾語にして、其の中哈密及

斷案